

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	通信会社（営業担当）	・携帯電話は新商品の発売に加え、旧端末の値下げで販売数が伸びると思われる。
	やや良くなる	一般小売店〔精肉〕（店長） 一般小売店〔書籍〕（従業員） 百貨店（営業担当） 百貨店（売場担当）	・来客数が徐々にではあるが増加傾向にあり、これから先も若干ではあるが良くなる。 ・このところ前年売上を上回っている。市場も少しずつではあるが活気づき、年末に向け期待が持てそうである。 今まで低迷していたラグジュアリーブランドなどの高級ブランドに復調の兆しがみられる。ファッションやトレンドに食指が動き出した感がある。ただし、全体的な底上げにはまだまだ実感が乏しい。 ・今後、気温変化が激しくなり、それに連れてアウターが売れると予想する。
変わらない		商店街（代表者）	・どの業種をみても、これといった売れ筋商品がなく、購買に結び付きそうな話題性のある商品もない。このまま年末を迎えるのが怖い状況である。
		百貨店（営業担当）	・急激な気温低下に伴い、客の冬物ファッションに対する関心が高まっている。しかし、コートの代わりにニット、セーターといった商品、ジャケットの代わりに今年流行のファーの帽子やファーのマフラーといった商品の関心度が高い。前年と比較すると、コートやジャケットといった単価の高い商品より低価格アイテムを購入する傾向が強い。
		スーパー（店長）	・野菜の価格高騰やたばこの増税など景気が良くなる要因が何もない。
		スーパー（総務担当）	・今後、景気が良くなる要素が見つからない。
		コンビニ（経営者）	・客単価は前年より落ち気味であるが、来客数が前年並みに戻っている。このため、競合店が開店してあと2か月で1年を経過するが、まだ売上は前年並みを維持できると予想している。弁当類の売上は依然良くないが、デザート類、温かいおでん類は好調に推移している。
		コンビニ（店長）	・たばこ特需の反動、禁煙者の増加、同業他社の進出の影響など苦しい状況が続くが、現在の状況より下回ることは考えられない。
		コンビニ（店舗管理）	・米価の下落は米どころの消費活動に悪影響が心配される。
		衣料品専門店（経営者）	・ようやく底打ち感も出てきたように思われるが、まだまだ不透明なところが多い。
		衣料品専門店（経営者）	・客の話では「最悪のときを考え銀行と話をしている」という段階よりさらに悪化しているところが多く、先行きが不安である。
		乗用車販売店（経理担当）	・季節的な要素もあり、低調期に入るので受注・販売とも現在のような傾向が続くが、修理部門は好調を維持できる。
		自動車備品販売店（従業員）	・天候に大きく左右されるので判断ができないが、集客面では低下していないので大きくは変わらない。
		住関連専門店（店長）	・現在の新築などの客の増加も一過性のものと考え。これが続くとは考えにくい。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・客は先行き一段の悪化を懸念しながらも、当面は現状が続くと考えている。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・来客数に変化はないが、1品単価の下落により売上が低下している。その分を低単価商品の販売により前年並みの売上にしようとしているが、この傾向は変わらない。
		観光型旅館（経営者）	・11月以降も宿泊料金の引き合いが多く、少しでも安価な宿泊施設に予約が流れる状況である。また、他社も忘年会企画などの料金を下げて提供している。
		観光型旅館（スタッフ）	・予約状況は11月を除いて前年実績を確保してきた。しかし、今後、間際予約がどの程度増えるか、団体予約の確保ができるか不透明で、前年実績を確保できるか予測できない。
都市型ホテル（スタッフ）	・レストラン利用客の動きが弱いため回復基調を感じない。		
旅行代理店（従業員）	・悪いままの状態が継続する。羽田空港国際線ターミナル開業効果はもう少し後と推測する。		
旅行代理店（従業員）	・年内はこのまま様子見の状況が変わらないと予想する。カンフル剤となる目立ったイベントなども見当たらず、案件数が上向きになるとは考えられない。来年以降の海外団体旅行の案件数が増えることを期待している。		

	タクシー運転手	・ 今後は大きなイベントはないが、冬場で足元も悪くなり、何かと外出の機会も多くなるので前年同様人出はある。
	タクシー運転手	・ 夕方早い時間帯は居酒屋が混んでいたが、最近は客が少ないように見受けられる。
	通信会社（社員）	・ 海外情勢、円高傾向など不安定要素が多いなかで、好転の予想はしにくい。補正予算など、政府施策への期待部分もあり、総じて好転、反転の予想がつきにくいという状況である。
	通信会社（営業担当）	・ 相変わらず、スマートフォン端末は好調であるが、新規・機種変更とともに携帯電話の購入に対しては全般に消極的である。総販売数に対して1人当たりの客単価が低く、全体を考えると動きの鈍い状況が変わらず続いている。
	通信会社（役員）	・ 平成23年7月に予定する地上アナログ放送終了までの期限が迫り、デジタルテレビへの買換えが増加するなかで、ケーブルテレビデジタル契約の需要もさらに増えるものと期待している。
	競輪場（職員）	・ 過去6か月の購入単価を比較するとほぼ横ばいのため、これと言った材料が無い限り、2～3か月先も急激な変化が無いと予想される。
	美容室（経営者）	・ 消費者の購買マインドが2～3か月で回復するとは思われない。
	住宅販売会社（従業員）	・ 住宅版エコポイントはあるものの大きな需要増には結びつかず、また、急激な円高もあり、環境の変化が客の買い控えにつながらないか懸念される。
	住宅販売会社（従業員）	・ 例年であれば季節的に需要が落ちる時期であるが、今年は客の動きや、住宅版エコポイント制度、その他の政策もあり、若年層が動いているので一定の需要が出てくる。
	住宅販売会社（従業員）	・ 価格の低下傾向は変わりなく、利益を考えても厳しいと予想される。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・ 客の購買行動が慎重になっている。特に若年層の消費行動にはつかみどころがない。
	百貨店（売場主任）	・ 円高や株価の低迷が市場、顧客の付加価値消費にマイナスになる。気温の低下もあり冬商材に期待をしたいが、高額商材に対する顧客の購買意欲が高まっていない。
	スーパー（店長）	・ 気温の変化次第で客の出足が変わるものの、現状の延長線で考えると良くなる見込みがない。
	スーパー（店長）	・ 月末の天候、気温の低さもあるが、客数減を肌で感じている。また、客の買物の予算が減っているように感じられる。
	コンビニ（経営者）	・ 猛暑による飲料の伸び、たばこ特需といったフォローの風が完全に止み、今年の春のレベルにまで落ち込むのではないかと危惧している。
	衣料品専門店（総括）	・ とにかく景気が良くなる要素が見当たらない。
	家電量販店（経営者）	・ 家電エコポイント制度の縮小に伴いテレビ、エアコン、冷蔵庫の売上が大幅に落ち込むことが予想される。
	家電量販店（店長）	・ 家電エコポイントの駆け込み需要の影響もあり来客数や販売数は増加しているものの、一過性とも考えられるので12月以降の来客数、販売数が心配である。
	乗用車販売店（経営者）	・ 9月初旬での新車購入補助金終了の影響は、予想以上に大きい。
	高級レストラン（スタッフ）	・ 秋の観光シーズンと忘年会シーズンの受注を控えているが、忘年会の受注は県や市の官公庁系の予約だけと厳しい環境は変わらない。
	一般レストラン（スタッフ）	・ 地元スーパーの倒産、輸出製造業が円高による利益減少など、失業者増加・労働者の所得減少が顕著になっている。新車購入補助金終了の駆け込み需要による節約のほかに、今年は大雪が予測されており厳しい状況になる。
	都市型ホテル（スタッフ）	・ 予約状況は苦戦している。消費単価も下落傾向にある。
	通信会社（職員）	・ 政治・経済・外交の各分野ともに閉塞感が強く、環境分野への期待も中高所得者層中心とはいえ、国民全体に対する強いプラス材料である。しかし、明るい兆しが無い限り、客の消費意欲はこれ以上活性化するとは思えない。
	テーマパーク（職員）	・ 現状の2桁近い消費単価の減少率のなかにはあっては、客数が持ち直したとしても、全体の売上は前年を下回るを得ない状況になっている。こうしたなかでは、今後2～3か月もやや悪くなる方向にあると予想している。
	住宅販売会社（経営者）	・ いつものことであるが、冬場に向かったの住宅建築の商談は少ない。

	悪くなる	一般小売店〔事務用品〕（営業担当） 家電量販店（店長） 乗用車販売店（経営者） その他専門店〔酒〕（経営者） スナック（経営者） 住宅販売会社（従業員）	・客の様子をみていると元気がなく、特に法人関係では経費圧縮が目立っており、見通しが暗い。 ・家電エコポイントのポイント数とエコポイント対象商品の見直しにより販売数量も減ってくる。 ・需要を引き出してきた新車購入補助金の終了やメーカーの支援金が底をつき、さらには新型車の発売も見込めないことからこれからは一段と冷え込む。 ・世の中全体が景気の良くならない状況に慣れてしまっている。さらなる不景気の到来を予感している。 ・社会に先行き不安材料が多くあり、土砂降りの雰囲気がある。 ・円高など企業を取り巻く環境が厳しくなっており、個人消費に与える影響も厳しいものになっていくことが予想される。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	食料品製造業（企画担当）	・変化を予測させる兆し、改善のための施策が見えてこない。
		繊維工業（経営者）	・衣料関係は安価なものだけが動いており、高価なものは動きが悪い。先は厳しい。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・住宅市場以外の分野については、少しではあるが動きが出ているものの、住宅市場は、3か月や6か月といった短期間で好転するとは思われない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・円高及び鋼材などの値上げでますます国内産業が厳しい状況が続く。
		精密機械器具製造業（経営者）	・年明けにかけて、特に海外向け新型商品の比率が高まり、総量的には増える予定であるが、今後の円高の動向とその影響が懸念される。
		通信業（営業担当）	・円高の影響を受け、企業の設備投資に陰りが出てきたようである。全体的に売上が減少している。
		金融業（融資担当）	・さらなる円高が懸念されるため、景気の下振れリスクを内包しながら足踏み状態が続く。
		不動産業（経営者）	・不動産取引が活発になることは考えられず、不安ばかりが募っている。
	新聞販売店〔広告〕（従業員） 司法書士	・前年同月比でマイナス2%から3%程度で推移していく模様である。 ・仕事が増えているようにみえる製造業者でも、「利益につながらない」と愚痴を言っている。	
	やや悪くなる	繊維工業（経営者）	・円高の進行が輸出のみならず、国内消費の低迷にさらなる影響を及ぼす懸念が増大しており、受注の先細り、また加工賃の見直しなどが心配である。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注は現状と比較してやや悪い。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・円高が直接輸出している国からの受注をさらに悪化させる。また国内の引き合いも円高で設備投資意欲がそがれていく方向にある。
電気機械器具製造業（経理担当）		・年末までは現状維持が可能だが、年明けからは自動車関係の減産などが影響して、電子部品関係も数量的に減少すると予測している。	
輸送業（配車担当）		・ここ最近の円高が急激に変化するとは考えられず、それに伴って物流の動きが悪くなる。	
悪くなる	建設業（経営者）	・当社でもわずかな未収入金の回収に苦労しているが、12月に入ると年末の資金需要に対しての銀行借入れがままならなくなり倒産する会社が増えると予想する。廃業も含めて、建設産業に大きな淘汰の波が襲ってくるのではないかと思われる。	
	建設業（総務担当）	・採算より受注確保を優先する業者が増加し、ますます受注競争がし烈になる。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・消費者動向が良くなり、消費が増えていると感じている。
	変わらない	人材派遣会社（社員） 人材派遣会社（社員）	・例年の年末業務委員の申し出が見受けられない。 ・まだ企業内失業者を抱えている会社も多く、派遣スタッフを必要とするまで回復していない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・正社員の大規模な雇用の動きが出てこない。
		職業安定所（職員）	・新規求人が増加傾向にあるものの、円高が雇用に及ぼす影響が懸念される。

	民間職業紹介機関（経営者）	・円高などにより人の採用は手控えられており、定期採用も慎重になっている。
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・円高の進行に対する影響及び新車購入補助金の終了など国の政策の影響を受ける企業が出ている。
悪くなる	-	-